

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

- 「業務の合理化・簡素化に向けた改善策」と「経費節減及び予算収入増方策の進捗状況」について、施設・設備の貸出しは、外部からの申し出に応じ、独自の収入を得ることを考えてもらいたいとの意見があった。

(平成21年6月22日 第23回経営協議会)

→ 大学ホームページのリニューアルに際して、施設貸出等の案内を学外の利用者に分かりやすいものとした。また、職員宿泊所の連続宿泊日数基準についても2週間程度に延長し運用している。(参考：H21年度収入12,777千円 対H16年度比1,554千円増収)

- 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について、「人材の養成に関する目的と教育研究上の目的を明確にし、学則に定めた。」とあるのは、「目的を学則上に明記した。」としてはどうかとの意見があった。

(平成21年6月22日 第23回経営協議会)

→ 意見のとおり修正し、平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書に反映させた。

- 第二期中期目標・中期計画(素案)について、以下のような意見があった。

(平成21年6月22日 第23回経営協議会)

- ・ 中国を中心とした国際化の大きなうねりを把握したうえで国際化を行っていかないとポイントはずれになってしまう。
- ・ 本学は国際化を掲げている以上、最先端を走らなければいけない。
- ・ 中国と韓国、台湾との関係をどう考えるかが重要だが、抽象的に書いては「国際化」という言葉は変わらない。実態に併せて中身を計画する必要がある。

→ 意見を踏まえ、中期目標原案及び中期計画案に具体的行動目標と行動計画を反映した。

<中期目標11>

「卓越した実践的学術の国際拠点を形成し、それを世界中どこからも見えるようにすることによって、世界に開かれた大学を実現する。横浜の地理的特性、歴史的背景を活かしたアジア諸国を始めとする各地域で国際交流活動を展開し、留学生受け入れや派遣の充実、国際的交流やネットワークの構築、整備、グローバルな重要課題研究等によって、世界に活躍できる人材の育成と世界から高い評価を得る教育研究活動を展開する。」

<中期計画11-1>

「国際戦略推進室による国際交流全般の一元的な取り組みを強化し、アジア諸国を始めとする基幹的交流協定大学との重点的交流など、全学的な国際交流を企画推進する。また、本学独自の国際交流基金を強化活用し、奨学金や招へい・派遣費用の支援を行う。」

- ・ 第二期は、それぞれの大学の特徴ある計画を出すようになっている。評価が満たされたほうがいいという考えは持たないほうがいい。

→ 意見を踏まえ、中期計画案及び年度計画案に本学の特徴ある計画を反映した。

<中期目標2>

「特に大学院にあっては、国内外の社会で評価される能力を備え、創造性豊かな高度専門職業人の育成を行い、さらに実践性に富む研究者養成も行う。」

<中期計画1-1>

「すべての学部と大学院において、入学者受け入れ方針と学位授与方針、到達目標及び育成人材像を「YNUイニシアティブ」として具現化し、広く社会に公表するとともに、教育課程編成・実施方針に反映させる。」

<年度計画8-1-2>

中期計画8-1「全学的な視点に立って部局ごとの研究目的に照らし、効果的な重点研究を定め、プロジェクト研究などの形で組織的に成果を創出する。」に対応する年度計画において、「世界の学術をリードする最先端の研究を推進するため、YNUリサーチイニシアティブを策定する。」と定めた。